

## 尾花沢: 日本有数の豪雪地帯

尾花沢は、日本三大豪雪地帯のひとつです。雪は、長く続く冬の間ずっと積もり続け、大量の積雪と深い雪だまりをもたらします。尾花沢では、11月から4月まで10メートル近い降雪があり、平年では1.7メートルの積雪があります。

雪は、尾花沢での暮らしの重要な一部であり、この地域の文化の多様な面に影響を与えています。冬の尾花沢の美しさは、地元の花笠おどりで歌われています。このことは、当地の伝統建築にも反映されています。住宅には、積雪を避けるために急勾配の屋根が設けられています。また、雪解け水が居住空間に損害を与えるのを避けるために、各部屋の床は高くなっています。雪の影響は、かんじき、重い冬着、荷物を運ぶそりのような、厚手の冬服や雪靴、運搬用のそりなど、伝統的な衣服にも見られます。農民たちは、作付けの時期の田畑の水やりや、家畜を養う助けとして、山からの雪解け水に頼っています。厳しい冬は、この町の高級和牛ブランドである「尾花沢牛」を育てる際に不可欠な要素です。また、尾花沢の夏の定番・雪蔵そばの生産においてもカギとなる存在です。雪蔵そばは、冬の間、雪蔵（天然の冷蔵庫）で寝かせておいた最上早生が原料で、一般的なそばよりも芳醇で甘めの味となっています。

冬に楽しむことのできるアウトドアスポーツやアクティビティが豊富にあり、毎年開催される雪まつりも、この地域最大級の季節の催し物です。银山温泉の雪で覆われた旅館と、明かりに照らされた通りは、日本の温泉文化を象徴する風景です。